

令和6年度

学校関係者評価報告書

令和7年3月13日現在

那覇市医師会那覇看護専門学校

目 次

1 学校の理念、教育目標	1	基準7 学生の募集と受入れ.....	12
2 本年度の重点目標と達成計画	2	基準8 財 務	13
3 評価項目別取組状況.....	5	基準9 法令等の遵守.....	14
基準1 教育理念・目的・育成人材像	6	基準10 社会貢献・地域貢献.....	15
基準2 学校運営.....	7	4 令和6年度重点目標達成についての自己評価	16
基準3 教育活動.....	8		
基準4 学修成果.....	9		
基準5 学生支援.....	10		
基準6 教育環境.....	11		

1 学校の理念、教育目標

教 育 理 念	教 育 目 標
<p data-bbox="566 456 696 488" style="text-align: center;">教育理念</p> <p data-bbox="152 507 1077 676">本校は、人間への深い関心を示す豊かな感性と幅広い教養で、生命の尊厳と人権の尊重ができる倫理観を育み、人々の健康生活を支援し、社会に貢献できる自律した看護師を育成する。その教育は、学習者の主体性を大切に学習者と教師が共に学問を探究し築かれる。</p> <p data-bbox="539 906 689 938" style="text-align: center;">教育目的</p> <p data-bbox="152 1031 1077 1107">本校は、看護師に必要な知識、技術、態度を養い、人間力、判断力、基礎的な看護実践能力を育み、地域医療に貢献できる人材を育成する。</p>	<p data-bbox="1525 467 1675 499" style="text-align: center;">教育目標</p> <ol data-bbox="1106 592 2085 1190" style="list-style-type: none">1. 人間の生命を尊び、一人ひとりの権利を守る倫理的な行動をとることができる。2. 他者とのより良い人間関係を築くことができる。3. あらゆる発達段階、あらゆる人々の健康状態に応じた状況や現象に気づくことができる。4. 科学的根拠に基づいた安全・安楽・自立に向けた看護が実践できる基礎的能力を身につける。5. 看護の役割を理解し、保健・医療・福祉における多職種と連携・協働する基礎的能力を身につける。6. 看護師としての自覚と責任を持ち、自己を振り返り生涯にわたり自己研鑽し続ける姿勢を身につける。7. 看護師としての役割を認識し、地域における保健・医療・福祉の発展について考える基礎的能力を身につける。

2 本年度(令和6年度)の重点目標と達成計画

令和6年度重点目標	達成計画・取組方法
<p>1 安定した学校運営</p> <p>2 教育課程の円滑な運営</p> <p>3 教職員の資質の向上</p> <p>4 教育環境の整備</p> <p>5 学生支援の強化</p> <p>6 入学生・卒業生への支援</p> <p>7 広報活動</p> <p>8 周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換</p> <p>9 後援会及び同窓会活動の支援</p>	<p>1 安定した学校経営 教育の目的・目標達成に向けて組織体制・財政基盤の安定を図り、学校経営・管理運営を円滑に進める。財務運営については、均衡のとれた財政管理に取り組む。特に、国・県からの運営費補助金等の堅持には一層の努力を行い、支出についても適切な節減に努める。また、教育活動その他、学校運営の状況については、事業の達成状況と課題を明らかにし、更なる運営の安定化をめざし、自己点検・自己評価を継続的に実施していく。本校の特色ある教育活動及び教育全般等の結果については、ホームページ等で情報を発信していく。看護の魅力伝える機会を増やし看護職を目指す人材の発掘や、受験生へは新たに創設する那覇市医師会奨学金を学校の魅力として募集要項等で情報を発信する。</p> <p>2 教育課程の円滑な運営 1学年120名、学生総数360名の教育課程を円滑に運営するために、専任教員、学外講師ならびに臨地実習施設の確保・定着に努める。教育実践においては、カリキュラム評価を行いディプロマ・ポリシー（期待する卒業生像）の達成度を分析し、教育目的・目標の達成を評価する。また、新カリキュラムと同時に導入したデジタルテキストも含めて評価を行い、ICTの活用や外部機関との連携で学習環境を整え、生命の尊厳を基盤に看護師に必要な基礎的知識、技術、態度を培えるよう創意工夫した取り組みを行う。更に学年を重ねるごとに発展的に学習ができるよう各領域間の連携を密にし、学生個々の自己教育力、社会人・組織人として将来を担う看護師に求められる能力を育成する。</p> <p>3 教職員の資質の向上 教職員のキャリア開発を支援し資質向上を図る。授業評価・キャリアラダーを用いた目標管理については継続して評価面接を実施していく。年間研修計画を立案し、県内外で行われる研修会や教育研究学会等への参加も推奨・支援していく。更に教員の教授能力及び教育管理能力を育成するための新人看護教員研修を全教員が受講できるよう支援を行う。ICT教育についてプロジェクトチームを中心に必要な研修会等を計画して取り組んでいく</p>

令和6年度重点目標	達成計画・取組方法
	<p>4 教育環境の整備</p> <p>ICT教育環境の整備を継続して行い、授業等がトラブルなく進められるよう学生の主体的な学習環境を整えていく。また、施設整備も継続して行い、今年度はエレベーターのリニューアル工事や下水管ポンプ設置工事を計画する。安全管理として施設の自主点検を定期的に行い、建物の破損防止、事故防止、火災防止等の強化を図り、保全管理に万全の対策を講じる。その他、敷地内周辺の植え込みや花壇、ロビー等の植栽・美化に努めることで学生の情緒教育を促進する。</p> <p>5 学生支援の強化</p> <p>看護師としての基礎的能力の習得に向けて、学生の心身の健康・学習活動・経済的支援に努める。併せて、社会人・組織人としての基礎的能力、就職・進学等、看護師として働き続けるために、専門性の追求や絶えず学び続ける力、多様性や創造性を身につけることができるようにキャリア発達を支援する。さらに、奨学金、修学資金の相談や貸与支援、心の相談・学業相談、就職及び進路相談等に関して、相談しやすい環境や相談体制を整える。令和6年度より新たな那覇市医師会奨学金、会員施設奨学金の創設を行い学生支援を強化する。学生の生活・学習状況の変化をキャッチし、早期から保護者・カウンセラーと連携し、学業継続ができるよう心のケア（メンタルヘルスケア）を配慮し支援する。</p> <p>国家試験対策については、3年間の支援計画を立案し、入学年次から最終年次まで各学年の教育進捗計画に応じた国家試験対策を計画的に実施する。また、模擬試験及び学習状況を分析し、弱点克服に向けた個人指導を強化し継続的に支援する。</p>

令和6年度重点目標	達成計画・取組方法
	<p>6 入学生・卒業生への支援 学び直し「リスキリング」に取り組む社会人受験者の確保に向け積極的に働きかけていく。推薦入学者を対象に行われるプレスクールは、入学までの期待感・モチベーションが維持でき入学後の学習活動がスムーズに移行できるよう支援する。卒業生に対しても、就職先にスムーズに適応し、離職することなく仕事を継続できるよう卒業後5ヶ月と1年目に里帰りを実施する。また、就職先との連携、教育へのフィードバックができるよう就職先や実習施設との連携・協働会議等の取り組みに努める。</p> <p>7 広報活動 ホームページやブログ及びSNSをとおして、日頃の学校生活や学校の魅力を発信していく。また、学校説明会・学校祭・オープンキャンパスでは実際の学習内容や学校生活を紹介する。さらに、学校独自の職業ガイダンスの開催や進路説明会を行い、質の高い学生の確保に努める。</p> <p>8 周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換 地域へ貢献するために地域活動に積極的に参加し、学生のボランティア活動も支援する。さらに、地域の児童・生徒の学校見学会や職場体験を受け入れ、看護職を理解し将来の看護師を目指すきっかけになるように努める。また、市町村や他機関等から講師派遣依頼等があれば派遣を行い、地域や他機関との交流を推進していく。併せて、日本看護学校協議会、沖縄県看護学校教育協議会での情報交換を進め、他の看護関連機関との連携を図る。</p> <p>9 後援会及び同窓会活動の支援 就職活動、その他、学生生活に必要な援助を後援会や同窓会から受けている。そのことを踏まえて、後援会及び同窓会がさらに活発に活動できるよう事務的支援を行う。</p>

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>令和6年度は新カリキュラムが施行されて3年目となる。新教育理念を社会のニーズに即した『自律した看護師』の育成と看護師養成であることを明確化した。</p> <p>『自律した看護師』を育成するために、学校の運営方針について、『那覇看護専門学校事業計画』に明文化した。年度初めに重点目標・事業計画を提示し教職員で周知している。前期には中間評価を行い進捗状況の確認と後期に向けての取り組みの見直し及び確認を行っている。</p> <p>教育理念を実現するために、教育目的・目標を基盤に、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを明確化し、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の領域ごとに履修要綱（シラバス）に掲げ教育計画を立案・明確化した。</p>	<p>学生は「自律した看護師」をめざし主体的に学べるよう、協同学習技法やプロジェクト学習を取り入れ、アクティブラーニングを教育活動として展開していく。また、学年の節目に教育理念を学生が意識して学生生活に臨めるように、学校長講和の中で伝えていく。</p>	<p>プレスクール 推薦入試で合格した入学予定者へ、入学前授業として、プレスクールを2回実施した。（仲間との交流・入学までのモチベーション維持）</p> <p>TAとの連携による技術教育 実習施設と連携協力の下、在学中の支援としてティーチングアシスタント（TA）と共に技術教育を行うことができた。</p> <p>アクティブラーニング 協同学習技法やプロジェクト学習、シミュレーション学習等、学生が主体的に学べるよう教育活動として展開している。</p> <p>ダブルスクール 放送大学との連携契約の下、ダブルスクール制度を取り入れている。</p> <p>学年を超えた交流や、学校行事を開催することができた。</p>
<p>学校関係者評価委員の意見</p>		
<p>学生に対して、ディプロマポリシーの説明を行うことは、学校の教育課程の理解につながり、なぜその科目を学習するのかという疑問に答えることになると思う。</p>		

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の理念に沿った運営方針は『那覇看護専門学校事業計画』に明文化している。重点目標・事業計画を提示し、前期には中間評価を行い進捗状況の確認と後期に向けての取り組みの見直し及び確認を行っている。『魅力ある選ばれる学校』となるよう、積極的に情報発信し、透明性・客観性を確保し学校の質保障・向上を図っていく。</p> <p>令和6年度は3学年すべて新カリキュラム対応での運営を行った。旧カリキュラムの学生が数名在籍していたが、科目の読み替えを行い単位修得し卒業することができた。</p> <p>本校は、教職員会議の場が意思決定の場であり、会議規程を定め、定例会議等を開催し、議事録は開催ごとに作成している。規則・規程等の改正が必要であれば 管理者会議を経て学校運営委員会等で審議し改正していく。教職員の研修計画を取り入れ、自己研鑽の機会とし資質向上を図っている。また、人材確保については、ホームページやナースセンター等で採用広報を行っている。</p> <p>業務の効率化を図るためにも、情報管理システムを継続し、計画的にメンテナンスおよびセキュリティー管理を適切に運営ができるよう取り組む。また、DX化を進めて更なる学務システムの改善を行う。</p>	<p>情報通信技術（ICT）を安全に取り扱うための知識や態度を養うための情報リテラシーについてさらに強化していく必要がある。</p> <p>電子テキストを採用しており、学内の通信環境の強化、サポート体制の強化PC等のアップデートを今後も継続的に行う。教職員 ICT スキルの向上を図り、電子黒板、電子カルテのスムーズな活用、学務システムの見直しを行い、より活用しやすく円滑に管理できるよう検討を進める。</p>	<p>学務システムを取り入れ教務事務による効率的な運用ができています。</p> <p>学生への情報発信をリアルタイムに実施できるよう、セキュリティー面を考慮し安全かつ迅速に情報を発信・共有するツールとして Google work space を導入し、円滑に学校運営を行っている。</p> <p>機材・環境を整えることが困難な学生に対する対応できるように機材（タブレット）の貸出を行っている。</p>
学校関係者評価委員の意見		
意見・提言など特になく妥当であると思われる。		

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育課程の編成方針、実施方針、職業教育に関する方針を明確に定め明文化している。又、教育到達レベルも明示しており、理念に適合している。</p> <p>看護師免許取得の意義を伝え、1年次から3年計画のもと看護師国家試験の支援体制を整えている。</p> <p>教育課程については履修要綱（シラバス）で明確にし、講義、演習、校内実習においては協同学習やシミュレーション、校内実習にはティーチングアシスタント(TA)の教育参加を行うなど工夫している。</p> <p>教育課程評価については、ディプロマ・ポリシー（期待する卒業生像）に関する卒業生の自己評価アンケートは4段階評価で、20項目の平均値は3.59であった。</p> <p>成績評価の基準について学則（学生便覧）に規定し、かつ学生に明示している。又、入学前の履修、他の教育機関の履修について学則に明記しており、単位認定会議にて適切に運用している。</p> <p>授業評価は全教員が実施する体制は整えているが、フィードバック等が不十分で、振り返り（他者評価）の実施が課題ある。</p> <p>教員の確保については、指定規則に沿った人材を採用し、計画的に専任教員養成講習会を受講できるよう支援している。教員の組織体制は規定に沿って整備している。教員の資質向上への取り組みについては、年度初めに年間の研修計画を立て、研修に積極的に参加している</p>	<p>ディプロマ・ポリシー（期待する卒業生像）の達成度を分析し、教育課程の改善に取り組んでいく必要がある。</p> <p>授業評価は全教員が実施する体制は整えているが、フィードバック等が不十分、振り返り（他者評価）の実施が課題である。全教員が、授業参観を計画し実施する等の取組を行う。</p>	<p>技術教育では、実習施設よりティーチングアシスタント(TA)の教育参加を行うなど工夫している。</p> <p>領域間、又は領域を超えて連携・協力体制を構築している。新カリキュラムに伴う新たな授業内容、教育方法について、会議を設け協議し取り組んでいる。</p>
学校関係者評価委員の意見		
<p>外部講師の授業評価はどのように対応しているか意見があった。</p> <p>1単位以上を担当している外来講師には、授業評価アンケートを活用して学生からの授業評価を行い、結果はフィードバックしている。また、学校から要望を伝えて対応している。授業評価は、学生個人が特定できない方法で行っており自由記載も増えている状況である。今後も授業改善の為に、行っていく必要がある</p> <p>看護技術について卒業到達度が示され、技術試験を行うなど教育に取り組んでいることは良いことである。しかし、学生は技術を頑張ろうとしているが、それよりも大事なのは患者と触れ合うことなのではないかと考える。学校の基礎教育では、知識と態度を養っていくことだと思うので、技術は基礎的なことを教育し、現場につないでほしい。</p>		

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職率 就職率100%を目標に設定している。事務部で就職先を把握しデータ化している。更に就職説明会は毎年1回、県内の病院を招き、校内で実施している。関連する企業（マイナビ・就職ナビ）を活用し、就職支援をしている。</p> <p>資格・免許の取得率 看護師資格取得について、100%を目標設定し、1年生から3か年計画のもと国家試験対策を実施している。毎年、合格実績を学校案内に表示し、全国の合格率ともに比較している。又、指導方法と結果を分析し指導方法を検討している。</p> <p>卒業生の社会的評価 卒後の実態を調査で把握することは十分にできていないため、今後は実態把握ができるよう具体的な計画を立案していくことが課題である。卒業生の研究業績については、学会発表等、学会誌で確認し把握するよう努めている。</p>	<p>卒業生の社会的評価について、卒後の実態を調査で把握することは十分にできていないため、今後は実態把握ができるよう継年的な計画を立案していく。</p>	
学校関係者評価委員の意見		
意見・提言など特になく妥当であると思われる。		

基準5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職等進路 学生への就職等に関しては、学年担当教員と就職担当事務職員は連携しており、学生の就職活動の状況は学内で共有している。</p> <p>中途退学への対応 学生の退学要因、退学者数および理由は把握している。退学までには、心理カウンセラーの活用の促がし、担当教員や教務部長また学校長、保護者も交えて面談を実施している。退学に至る要因を分析することで、必要な支援方法を見出し、退学率の低減につなげられると考える。</p> <p>令和6年度に教員は「合理的配慮」の研修を受講できたので、具体的な支援について整えることが必要である。</p> <p>学生生活 学生の経済面に対する支援として、各奨学金の紹介や、個別相談に応じている。学生の健康管理では、年1回の学校健診を行い2次検診が必要な学生には随時指導を行っている。</p> <p>課外活動の支援は、サークル活動マニュアルを作成し、予算やサークル活動に関しての相談を行っている。</p> <p>保護者に対して、入学式後に学校説明会を開催し、本校の教育理念・目的・目標及び教育課程内容の説明を行っている。また、後援会役員会及び総会を通して学校の教育活動状況や学校の支援体制について周知を図っている。</p> <p>卒業生の支援として、卒後5ヶ月と1年目に「里帰り」を開催している。社会人経験者の入学に際し、入学前の履修科目に対して、学則に従って単位認定をしている</p>	<p>休学者や中途退学者の要因分析を行い、支援の方法を検討していく。</p> <p>「合理的配慮」について、具体的な支援体制の整備を行う。</p>	<p>学生の就職等進路 ・就職・進学の情報提供や個別相談を行っている。 ・就職試験や履歴書・小論文の書き方、面接時マナー等の支援を行っている。</p> <p>学生相談の体制 ・各学年の教員が相談窓口として学生を支援している。 ・学生が相談しやすいように男性・女性のカウンセラーを配置している。1年次の4月に、二人のカウンセラーの特別講義を行い顔合わせの機会を設けている。2年次の4月も同様に特別講義を行っている。</p> <p>学生生活 ・経済的支援制度の情報提供を十分行っている。 日本学生支援機構・沖縄県看護師等奨学資金 教育訓練給付制度・専修学校奨学金給付事業他 那覇市医師会奨学金（令和6年度より創設） ・学生の健康管理に関して、「わたしの健康ノート」を活用し、学校健診、抗体価検査、ワクチン接種状況が管理できるよう指導している。</p> <p>保護者との連携 ・学生会が発行している「那覇看だより」、学校HPも随時更新し情報を発信している。</p> <p>卒業生・社会人 ・卒後は、5ヶ月と1年目に「里帰り」を開催している。卒業後の研究活動の支援として図書館を開放し、個別での相談も行っている</p>
学校関係者評価委員の意見		
<p>1年生から地域・在宅看護などの学習が入り、勉強量が多いと思う。Z世代はコミュニケーションが苦手など、コロナ禍の影響を受けた時期によって、学生をサポートしていくことが今後も必要だと考える。</p> <p>現場では職場の心理士さんにも知られたくない方もおり、職場以外の場の活用として「看護協会」にも対応できる部署があるので学生にもアナウンスしてはどうか。</p> <p>「合理的配慮」については教員の対応だけではなく、クラス学生のサポートも必要ではないか、他の学生への説明や配慮も考えていく必要がある。</p>		

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設・整備等 施設・整備等に関しては、看護師養成所の運営ガイドラインに基づき機械器具、標本、模型及び図書を十分に整備している。また、法定点検や日常点検を定期的に行い必要に応じて部品の取替や修繕を行っている。</p> <p>学外実習 臨地実習について教育課程上の位置づけを明確にし、臨地実習要項を作成し適切に運用している。実習施設との臨地実習協議会を開催し、連携を密にしている。また年度末にはユニフィケーション会議を開催し協同学習や現場との意見交換を行っている。臨地実習の教育効果について、目標評価スケールステップアップスケールの活用で基礎的能力・成長過程の評価を確認している。</p> <p>学校の式典やオープンキャンパスは、学生会を中心に委員会を設立し教職員と共に参画している。また、卒業生・保護者・実習施設等へ学校行事の案内を積極的に行っている</p> <p>防災・安全管理 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備している。施設・建物・設備の耐震化を確認し令和 6 年度はエレベーターリニューアル工事を実施。消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき適切に対応している。学内における安全管理体制を整備し、防犯カメラの設置、外来者の管理、記名と入管許可書着用をしている。実習中の災害発生時の学生の安全確保について、臨地実習要項に載せ、学生、実習施設への説明を実施している。</p>	<p style="text-align: center;">今後の改善方策</p>	<p>模擬負傷者役を通して防災意識、安全教育 那覇空港航空機事故防災訓練へ、学生は模擬負傷者役で参加して貴重な体験をしている。</p> <p>ステップアップスケールを用いて基礎的能力の評価 臨地実習の教育効果については、各領域の目標評価スケール及びステップアップスケールを用いて基礎的能力の評価・成長過程の評価を確認している</p>
学校関係者評価委員の意見		
意見・提言など特になく妥当であると思われる。		

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集活動 案内があるガイダンスは全て参加している。また、高等学校からの要望を受けて独自の学校説明会も開催している。高等学校の進路指導教員を招いた学校説明会を開催し教育活動等の情報提供を行っている。入学希望者に向けて「学校案内」パンフレットを毎年作成している。ホームページ内に学校紹介ブログのコーナーを開設して、学内の様子を伝えている。若者に定着のあるインスタグラムも活用している。入学試験については3回の入学選抜試験を実施し機会を設けている。入学相談については電話やメールで対応しており、希望があれば学校見学会も行っている。広報活動や学生募集活動に関する情報管理は担当事務職員で管理している。高校へのガイダンスの他、予備校へのガイダンスも実施した。また、実習病院へ募集要項の配布を行った。</p> <p>入学選考 入学選考基準や方法は、規程で明確に定めており適切に行われている。入学卒業等認定委員会において決定し入学選考の公平性を確保している。応募者数・合格者数・辞退者数・合格率データは適切に管理している。受験に関して財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っている。</p> <p>学納金 経費内容に対応し、学納金を算定している。学納金の内容は明確にし、学納金等徴収する金額はすべて募集要項に掲載している。また、学納金は県内の看護専門学校5校の水準を把握している。文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項やホームページに明示し、授業料の返還を行っている。</p>	<p>合格率・辞退率などの現況を分析し、入学選考に活かしていく。</p> <p>希望する高校と相談の上、各校個別のガイダンスの実施方法を構築する。</p>	<p>高校の教員に対する学校説明会を実施し、本校の教育の特徴等を説明している。</p> <p>入学希望者・保護者・高校の教員等一般向けの学校案内パンフレットを作成して広報活動に努めている。</p> <p>オープンキャンパスや学校祭の開催では、学校説明会を設定し、進路や奨学金等の相談が気軽に行えるブースを設けている。</p>
学校関係者評価委員の意見		
看護補助者として働き、受験のため予備校を理由に離職する場合がある。看護師になる意欲がある者の受け入れも検討してはどうか。看護師の人材確保として考えてはどうか。		

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>安定した財務状況である。中長期的にみても学校の財務基盤は安定しており、適切に会計監査も受けている。業務は法令等に従い適正に実施されており、事業報告書は本校の状況を正しく示している。監査法人による定期監査を実施し指導を受けている。</p> <p>財務情報はホーム公開体制の環境も整い情報公開している。</p> <p>予算規定が整備されていないので課題としている。</p> <p>特にコスト管理においては、支出状況を把握し、項目別にコスト管理を行うよう努力しているが、省エネ対策も含めて電力使用について有効な方策を検討していく事が今後、更に必要である。</p> <p>今年度で借入金の全てを返済するので、次年度以降の中期計画書の策定に取り掛かる。</p>	<p>予算規定については法人全体で検討することとされていたが、法人全体での整備に時間を要するため学内において内部規程で整備した。</p> <p>更に、省エネ対策も含めて電力使用について有効な方策を業者から提案いただき有効な方策については中期計画に盛り込んでいく。</p>	<p>県から学校運営費の補助を受けており、財務管理においても県の要綱に従い管理、運営を行っている。</p>
学校関係者評価委員の意見		
意見・提言など特になく妥当であると思われる。		

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令の設置基準に基づき学校を運営し届け出ている。運営に必要な規則・規定等は、整備し適切に運用しており、個人情報保護に関することや学務システムおよびサイトに関しても、適切に運用している。</p> <p>ハラスメント等の防止規定は作成されているが、具体的な対応マニュアル策定は不十分である。教職員へハラスメントアンケートを実施し、状況の把握を行った。ハラスメント等の防止に向けて、組織としての醸成が必要である。昨年、教職員に対して、ハラスメント防止の研修を行っているが、今後も継続して行う必要がある。</p> <p>学生に対しては、意見箱を設置の設置、教職員のコンプライアンスに関する窓口として顧問弁護士が設置されている。</p> <p>個人情報保護に関する取り扱い・規定を定め、適切に運用している。学生へは個人情報保護・管理、SNSの取り扱い、通信機器などのマナーなどについては、学校生活や実習における教育指導や特別講義を通して、周知している。ICT活用の拡大に伴い、受講する際の誓約書や情報の取り扱いマニュアル作成を行い、対応している。</p> <p>学校関係者評価結果は報告書にとりまとめ、学校関係者評価委員会の意見も合わせてホームページに掲載している。</p>	<p>ハラスメント等の防止規定は作成されているが、具体的な対応マニュアル策定は不十分である。教職員に対して、ハラスメント防止の研修を行ったが、ハラスメント防止の意識の醸成をめざし今後も継続していく必要がある。また、コミュニケーションが増えるよう職場環境を整え、発生を未然に防止するよう取り組んでいく。</p> <p>障害者差別解消法の合理的配慮提供が義務化されており、「合理的配慮」に関して教員の研修は行っている。今後は、合理的配慮について学生への周知や申請書・支援体制などの整備をしていく。</p>	
<p>学校関係者評価委員の意見</p>		
<p>ハラスメントの防止については、引き続き具体的な対応マニュアル策定、ハラスメント防止の意識の醸成を期待する。</p> <p>合理的配慮について、身体的サポートは分かりやすいが、発達障害については難しく本人の自覚がない場合もある。実習などで、情報も共有する必要があるのではないかと。本人が情報を開示して助けてもらう行動がとれるよう働きかけが必要である。</p>		

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>実習施設との連携にも力を入れ、ティーチングアシスタント（T・A）の活用を行い、臨地実習施設と学校の教育連携推進会議（ユニフィケーション会議）を開催し、講師のキャリアアップのために認定書を交付している。</p> <p>就職指導に関しては、県内の実習病院を中心に就職説明会を行っている。実習病院や各専門学校、医療系大学、沖縄県と広く連携しながら運営ができています。</p> <p>ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しており、SDGs パスポートを学生に紹介し、ボランティアの実績の自己管理が行えるよう支援している。</p>		<p>認定書交付</p> <p>学校と実習施設との連携として教育連携推進会議（ユニフィケーション会議）を開催し、技術教育に携わった方、講義を行った方へキャリアアップの為の成果として認定書を交付している。</p> <p>ボランティア活動</p> <p>ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励し、学生の活動実績を評価し、卒業時に表彰している。ボランティア活動を行った学生に対し、SDGs パスポートにて自己管理ができるようにしている。</p>
学校関係者評価委員の意見		
意見・提言など特になく妥当であると思われる。		

4 令和6年度重点目標達成についての自己評価

令和6年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1 安定した学校運営</p> <p>2 教育課程の円滑な運営</p> <p>3 教職員の資質の向上</p> <p>4 教育環境の整備</p>	<p>1. 安定した学校運営 教育目的・目標の達成に向けて組織体制・財政基盤の安定化については、均衡のとれた財政管理に努め、支出については適切な節減に努めることができています。 受験生の確保に向けて、予備校へも積極的に学校説明会を行い227名の応募者の確保となり、前年度差異は15名増であった。しかし、入学辞退があり令和7年度入学生は116名（120名定員）であったことから、入学定員を確保する課題がある。創設した那覇市医師会奨学金を学校の魅力として募集要項等で情報を発信する。年度末に学校運営全般の自己点検・自己評価を実施し事業の成果状況と課題を明らかにし、結果をホームページで公表していく。</p> <p>2. 教育課程の円滑な運営 新カリキュラム対応の学生が3学年揃い運営する年である。旧カリキュラムで在籍していた学生も全員卒業となり、教育課程については、適切に運営することができた。新カリキュラムで学修した卒業生の、ディプロマ・ポリシー（期待する卒業生像）の達成度は高く、看護師国家試験の合格率は99.1%であった。 看護職に必要な自己教育力、社会人・組織人としての基礎的能力の育成については、「step up スケール 看護師として必要な基礎力」を継続的に活用し学生自身で自己評価を行い、自己成長を確認することができた。 新規実習施設については、県へ申請手続きを行い確保することができた。</p> <p>3. 教職員の資質の向上 年間で計画していた各教職員の研修会（オンライン含む）、及び全体講習会に積極的に参加し、教職員の資質向上、教育の指導能力の充実に努めた。また、県外で学会発表を行った。2年コースの教務主任養成講習会に、教員1名参加し受講することができた。キャリアラダーを活用した目標管理に基づく評価面接を実施することができた。専任教員の条件である教員養成講習会の受講に向けて、未受講者に対して受講計画立案</p> <p>4. 教育環境の整備 ICT教育環境の整備を行い、PCトラブル等の予防対策を引き続き行う。 施設整備として、エレベーターリニューアル工事や体育館整備として断熱塗装の実施を行い、カーテンの取り換えを実施。以前より学生から要望のあった、教室の机といすの入れ替えを春季休暇中に実施し、学生の利便性を考慮し事務窓口支払いに電子決済を導入 施設整備に関しては、法定点検や日常点検を定期的に行っている。駐車場の整備も舗装工事やロープ張替えも含めて行うことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に看護師を目指す人材の減少や、大学を選択する学生が増えている影響もあり、受験生が減少している。現役生は大学との併願により、辞退者が予測される。令和7年度は、社会人入学生枠の拡大を行っていく。また、魅力ある学校として選ばれるよう引き続き努力して行く。 ・カリキュラム評価は継続して行い、教育課程運営に取り組んでいく。 ・学生の学習を保障するため、必要に応じて実習施設の拡大を行う必要がある（実習施設より受け入れ中止がある場合） ・専任教員の確保に向け募集を行う（産休、定年退職の補充） ・教員養成講習会の未受講者に対しては、受講計画を立て、専任教員の条件を整える ・教員の世代交代が進んでおり、安心して働ける職場として、新任教員の交流の機会を設ける。 ・図書室の整備として、図書棚の交換や情報科学室のPCの入れ替えが必要である。 ・学生用トイレについて、使用頻度の低い和式トイレを洋式へ変更する。

令和6年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>5 学生支援の強化</p> <p>6 入学生・卒業生への支援</p> <p>7 広報活動</p> <p>8 周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換</p> <p>9 後援会及び同窓会活動の支援</p>	<p>5. 学生支援の強化 経済的支援として各奨学金の紹介や個別相談に対応することができた。また、新たに創設した那覇市医師会奨学金で、2年生3名、3年生3名の支援を行うことができた。 社会人・組織人としての基礎的能力、就職・進学等キャリア発達を支援するセミナーを取り入れ実施している。また、希望学生を対象に小論文対策も実施することができた。 国家試験合格100%をめざし、教員及び学生の国試対策委員を中心にかかわることができ、国家試験は99.1%の合格率であった。サークル活動の再開を行うことができた。 発達障害のある学生の学ぶ権利を保障するために、看護学校でも「合理的配慮」が求められている。「合理的配慮」について、教員は研修会に参加し、基本的な考え方や対応について学ぶことができた。今後多様な学生への支援につなげていく。</p> <p>6. 入学生・卒業生への支援 入学前支援として、プレスクールを実施することができた。在学生との交流も企画し、参加者より好評であった。卒業後支援として卒業5か月目と卒業1年目に里帰りを実施し、卒業生と在校生の交流を企画することができた。在校生は就職している先輩より最新の情報を得ることができ好評であった。</p> <p>7. 広報活動 日頃の学校生活等について学校ホームページ、ブログ、SNSで紹介することができた。高校進路担当者を招いての学校説明会は対面で行うことができた。遠方はオンライン(zoom)で対応し実施できた。説明会後に、在校生と高校の恩師との交流の場を設けた。学校祭、オープンキャンパスは、学生会の協力の下、実施することができた。</p> <p>8. 周辺地域との交流、及び他校との情報交換 「地域・在宅看護論」の科目で、学生が地域の暮らしと健康との関連で豊見城市のフィールドワークを行い、発表会ではお世話になった方々を招き交流を持つことができた。地域の中学校より職場体験を受け入れ、看護学校を知る機会になった。 学生のボランティア活動は、5月以降から依頼が増え2年生を中心に活発にボランティア活動を行うことができた。糸満の防災訓練や実習病院の災害訓練に、学生は負傷者役のボランティアとして参加し、貴重な体験をすることができた。 沖縄県看護教育協議会での情報交換については、校長役員会や再教育研修会、領域会議等を通して情報交換をすることができている。</p> <p>9. 後援会及び同窓会活動の支援 後援会及び同窓会活動がさらに活発に行えるよう事務的支援を行った。</p>	<p>・発達障害のある学生の対応として、「合理的配慮」が求められている。学校の方針や諸手続きなどを整えることが課題である。 (合理的配慮の関する規程、学生への周知)</p> <p>・休学生・退学生の分析を行い、学生の支援方法についての検討、入学試験も含めての検討が課題である。</p>